

令和 8 年 度
歯科衛生士科
1年次 前期
授業計画 〈シラバス〉

〒770-0003

徳島市北田宮 1 丁目 8 番 6 5 号

一般社団法人 徳島県歯科医師会

会立 徳島歯科学院専門学校

歯科衛生士科 講師紹介
1年 前期

専門分野	授業科目	単位数	時間・回数	所属・講師名	資格	臨床経験	ページ	
基礎分野	科学的思考の基盤生物学	1	28時間 90分×14	元 高校教諭 山口 寛 先生			1,2	
専門基礎分野	人体の構造と機能解剖学	2	32時間 90分×16	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面形態学分野 角田 佳折 先生	歯科医師	有	3,4	
	人体の構造と機能生理学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 食料科学分野 赤松 徹也 先生			5,6	
	歯・口腔の構造と機能口腔解剖学	2	32時間 90分×12	徳島大学大学院医歯薬学研究部 組織再生制御学分野 山本 朗仁 先生	歯科医師	有	7,8	
			90分×4	徳島大学大学院医歯薬学研究部 組織再生制御学分野 加納 史也 先生	歯科医師	有		
	歯・口腔の構造と機能歯の解剖学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 組織再生制御学分野 加納 史也 先生	歯科医師	有	9	
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進病理学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野 永尾 瑠佳 先生	歯科医師	有	10	
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進微生物学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔微生物学分野 廣島 佑香 先生	歯科医師	有	11	
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進薬理学	2 (後期歯科薬理学と総合)	28時間 90分×14	徳島県薬剤師会 理事・薬局開業 森本 順子 先生	薬剤師	有	12,13	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み衛生・公衆衛生学	2	32時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔保健衛生学分野 福井 誠 先生	歯科医師	有	14,15	
			90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 予防歯学分野 須磨 紫乃 先生	歯科医師	有		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み口腔衛生学 I	2	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔保健衛生学分野 日野出 大輔 先生	歯科医師	有	16,17	
	専門分野	歯科衛生学総論 歯科衛生士概論	2	32時間 90分×5	徳島歯科学院専門学校 教務室長 伊賀 弘起	歯科医師	有	18-20
				90分×11	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 教務主任 福井 かおり	歯科衛生士	有	
	専門分野	臨床歯科医学 臨床歯科総論	1	28時間 90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野 湯本 浩通 先生	歯科医師	有	21,22
90分×2				徳島大学 名誉教授 市川 哲雄 先生	歯科医師	有		
90分×2				徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面矯正学分野 田中 栄二 先生	歯科医師	有		
90分×2				徳島大学大学院医歯薬学研究部 小児歯科学分野 長谷川 智一 先生	歯科医師	有		
90分×2				徳島大学 名誉教授 宮本 洋二 先生	歯科医師	有		
歯科予防処置論 う蝕予防処置法 I	6 (1学年・2学年総合)	年間12時間 90分×6	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 溝江 里美	歯科衛生士	有	23		
歯科予防処置論 歯周病予防処置法 I		年間138時間 90分×69	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 溝江 里美	歯科衛生士	有	24-27		
歯科保健指導論 歯科保健指導 I	7 (1学年・2学年総合)	年間110時間 90分×55	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 寺西 菜実	歯科衛生士	有	28-30		
歯科診療補助論 歯科診療補助法 I	7 (1学年・2学年総合)	年間150時間 90分×75	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 寺西 菜実	歯科衛生士	有	31-34		
備考								

科目分野	基礎分野	科目名	生物学
学年	1年次	学期	前期
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	山口 寛		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士は、口腔の健康を担う者として、広い基礎知識と高度な技能が求められる。特に、再生医療や遺伝子治療の分野は、新しい歯科治療として重要である。「生物学」では、歯科衛生士にとって基礎・基本となる「生命、組織と細胞、生命の連続、環境と動物の反応」について学習する。

授業の概要

生命科学の基礎・基本としての知識を確実に身につける。それらの発見・解明に至った観察・実験方法を深めることによって科学的思考力を養い、日常生活の中で課題を見つけ、その課題を解決する能力と態度を養う。

到達目標(SBOs)

- 1 生物の特徴や細胞を構成する物質について説明できる。
- 2 細胞を構成する成分や元素、タンパク質・核酸・ATPの構造について説明できる。
- 3 細胞小器官の形態や機能について説明できる。
- 4 同化と異化、酵素のはたらきや種類について説明できる。
- 5 細胞呼吸のしくみについて説明できる。
- 6 体細胞分裂の過程を理解し、細胞周期に見られるDNA量の変化と関連付けて説明できる。
- 7 ヒトの体をつくる4種類の組織について、具体例をあげて説明できる。
- 8 ニューロンにおける活動電位の発生や興奮の伝導・伝達について説明できる。
- 9 減数分裂の過程を理解し、細胞周期に見られるDNA量の変化と関連付けて説明できる。
- 10 配偶子の形成や受精について、染色体の動きと関連付けて説明できる。
- 11 メンデルによる“遺伝の法則”の発見から遺伝情報の発現(セントラルドグマ)に至る経緯を理解する。
- 12 遺伝子DNAの複製、転写、翻訳について説明できる。
- 13 さまざまな外部刺激の受容体である動物の感覚器と効果器による反応について理解する。
- 14 ホメオスタシスの担い手である体液のはたらきについて説明できる。
- 15 自律神経系における交感神経系と副交感神経系の違いについて具体例をあげて説明できる。
- 16 ホルモンの名称と内分泌腺名、それぞれのはたらきを説明できる。
- 17 自律神経と内分泌系(ホルモン)が協調して行う血糖値調節と体温調節について説明できる。
- 18 自然免疫のしくみについて理解する。
- 19 獲得免疫のしくみについて理解する。
- 20 自然免疫・獲得免疫の相互作用による生体防御のしくみを説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	細胞と組織	細胞の構成物質 細胞小器官	タンパク質・核酸、細胞小器官	1,2,3	山口
2	〃	〃	細胞小器官	3	山口
3	代謝	同化と異化・酵素	酵素のはたらきと種類	4	山口
4	〃	細胞呼吸	酸素呼吸と無気呼吸	5	山口
5	ヒトの組織・器官	体細胞分裂・ヒトの組織	体細胞分裂	6	山口
6	〃	〃	上皮・結合・筋・神経各組織	7,8	山口
7	生命の連続	生殖の方法・減数分裂	減数分裂と配偶子形成	9	山口
8	〃	〃	〃	10	山口

9	〃	遺伝と遺伝子	遺伝の法則	11	山口
10	〃	〃	DNAの複製・転写・翻訳	12	山口
11	内部環境を保つ仕組み	ホメオスタシス・体液	血液とリンパ・組織液	13,14	山口
12	〃	自律神経と内分泌系	自律神経・ホルモン	15,16	山口
13	〃	自律神経とホルモンの協調	血糖量・体温の調節	17	山口
14	〃	生体防御	自然免疫・獲得免疫	18,19,20	山口

教科書

歯科衛生学シリーズ 生物学 (医歯薬出版株式会社)

参考書

生物学関連書籍

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

学期末試験の成績(100点満点中, 60点以上)で, 合否を判定する。なお, 授業態度・出席状況を加味することもある。

備考

理解力を高めるため, 教科書の配列順序を変更して授業を進めることがある。

科目分野	専門基礎分野	科目名	解剖学		
学年	1年次	学期	前期		
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2	単 位	
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)		
担当教員	角田 佳折	大学病院での診療実績あり			
授業の目的(GIO)					
人体の正常構造を系統的に理解し、正常と疾病の違いを判断できる知識を取得する。					
授業の概要					
人体を構成する器官の構造と機能の基本的事項を概説する。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の部位と方向用語 2. 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる 3. 身体の方向用語を正確に用いることができる。 4. 体位を含む姿勢を列挙できる。 5. 動脈、静脈および毛細血管の構造と役割を説明できる。 6. 肺循環と体循環を説明できる。 7. リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。 8. 心臓の構造と機能を概説できる。 9. 脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。 10. 末梢神経系の機能と分類を概説できる。 11. 興奮の伝導を概説できる。 12. 骨の基本構造と連結様式を概説できる。 13. 骨の改造現象(リモデリング)を概説できる。 14. 筋の種類と特徴を説明できる。 15. 骨格筋の収縮と特徴と筋収縮の機序を概説できる。 16. 消化器の基本構造と機能を概説できる。(食道・肝臓・胆嚢・膵臓を含む) 17. 胃における消化を概説できる。 18. 腸における消化と吸収を概説できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	人体の構造と機能	人体の構成区分、体の方向用語	概論	1,2,3,4	角田
2	骨格系	概論、骨の発生	骨学概論	12	角田
3	骨格系	頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨	骨学各論	13	角田
4	筋と運動	概説	筋学概論	15	角田
5	筋と運動	各部位の運動	筋学各論	14	角田
6	消化・吸収	消化器の構造	消化管	17,18	角田
7	消化・吸収	胃・小腸・大腸機能	消化管	17,18	角田
8	循環	心臓	心臓	8	角田
9	循環	動脈系	動脈	5,6	角田
10	循環	静脈系	静脈	5	角田
11	循環	胎児循環系、リンパ系	リンパ	7	角田
12	神経系	神経系の構成、中枢神経系	中枢神経学	9,10	角田

13	神経系	末梢神経系	末梢神経学 脳神経	11	角田
14	神経系	末梢神経系	末梢神経学 脊髄神経	11	角田
15	消化・吸収	消化器の構造	咽頭の紙模型作成	16	角田
16	消化・吸収	消化器の構造	咽頭の紙模型作成	16	角田
教科書					
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版)					
参考書					
新訂 目で見るとからだのメカニズム 堺 章(医学書院) イラストでわかる歯科医学の基礎(末永書店)					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
定期試験と課題演習で評価する。割合は、期末試験80%、課題演習20%とする。課題演習は15、16回目の講義で実施し、提出物により、完成100点、未完成50点の評価とする。期末試験では60点以上(100点満点)の取得とし、再試験は1回行う。					
備考					

科目分野	専門基礎分野	科目名	生理学		
学年	1年次	学期	前期		
時間数	16 時間 (90分 × 8回)	単位数	1 単 位		
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)		
担当教員	赤松 徹也				
授業の目的(GIO)					
細胞の基本構造を理解し、人体の各臓器・組織の働きについて理解する。血液、循環、呼吸、排泄等の機序について学ぶ。神経や筋組織における興奮の発生とその伝達機構、筋収縮の機構、神経-筋ならびに神経-神経接合部(シナプス)における刺激伝達機構について学ぶ。神経系・内分泌系による各臓器・組織の調節機構、感覚器系による生体の情報受容機構について学ぶ。消化・吸収・代謝(肝臓、膵臓含む)、内分泌ホルモンの生合成・分泌調節および生理作用、生殖器系の働きについて学ぶ。					
授業の概要					
下記項目について概略を学ぶ。 1) 細胞の構造と機能 2) 血液(成分、止血・凝固・線溶系、血液型・輸血) 3) 循環器系(体循環・肺循環、刺激伝導系、心電図、血圧調節) 4) 呼吸器系(肺気量・換気量、ガス交換、調節機構) 5) 筋(種類と機能、筋収縮、筋電図) 6) 自律神経・中枢神経系 7) 感覚器系(視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、体性・内蔵感覚) 8) 消化器系(消化・吸収、構造と機能) 9) 内分泌・生殖器系(視床下部-下垂体系、内分泌器官、ホルモン、性周期、受精・妊娠・分娩) 10) 排泄・体温(腎臓の構造と機能、体温調節・変動)					
到達目標(SBOs)					
1. 細胞膜、核、細胞内小器官の構造と機能を説明できる。 2. 赤血球、白血球、血小板の構造と機能を説明できる。 3. 止血と血液凝固・線溶系の機序を説明できる。 4. 肺循環と体循環を説明できる。 5. 心臓の構造と機能、刺激(興奮)伝導系、標準心電図波形を説明できる。 6. 血液循環と血管運動、血液脳関門、血圧の調節機構を説明できる。 7. 肺の構造と機能、呼吸運動の機序と調節系を説明できる。 8. 筋組織・骨格筋の構造と機能、収縮の特徴、筋収縮の機序を説明できる。 9. 神経の構造と機能、活動電位の発生・伝播、シナプスにおける興奮伝達、神経伝達物質の種類と機能を説明できる。 10. 体性神経系と自律神経系、交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 11. 脳と脊髄の構造と機能、自律機能(呼吸・循環・体温)調節中枢の働きを説明できる。 12. 皮膚感覚・深部感覚の受容体の構造と機能を説明できる。 13. 視覚器、嗅覚器、味覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。 14. 消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の構造と機能を説明できる。 15. 腸管平滑筋の特徴、消化液・消化管ホルモンの種類と機能を説明できる。 16. 肝臓の構造と機能、胆汁の分泌と機能を説明できる。 17. 膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。 18. 内分泌器官の構造と機能、ホルモンの特徴と分泌調節、男性生殖器・女性生殖器の構造と機能を説明できる。 19. 腎臓と尿路の構造と機能、ネフロンの働きを説明できる。 20. 体液の量と組成、浸透圧の調節機構、水代謝と主な電解質の出納、酸-塩基平衡を説明できる。					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	細胞の構造と機能・血液	細胞、血液、血液凝固系、血液型	細胞の構造と機能、血液の成分、凝固・線溶系、出血性素因、血液型と輸血	1-3	赤松
2	循環・呼吸器系	心臓、心電図、肺、ガス交換	心臓の構造・機能、心電図、呼吸運動、換気の仕組み、ガス交換、呼吸の調節	4-7	赤松
3	筋	筋、筋収縮	筋の種類と機能、筋電図、筋収縮のメカニズム	8	赤松

4	自律神経・中枢神経系	神経の機能、体性神経、自律神経・中枢神経系	神経系の分類・基本構造、興奮と伝導、シナプス、自律神経系の調節、反射	9-11	赤松
5	感覚器系	感覚の基本性質、特殊感覚、体性・内臓感覚	視覚、嗅覚、聴覚、味覚、体性感覚	12-13	赤松
6	消化器系	胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓	消化と吸収、消化器系の構造と機能、消化液・消化酵素、消化管ホルモン	14-17	赤松
7	内分泌・生殖器系	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、精巣、卵巣	内分泌器官とホルモン、視床下部-下垂体系、生殖器系・性周期、受精・妊娠・分娩	18	赤松
8	排泄・体温	腎臓、ネフロン、体温調節	腎臓の構造と機能、機能単位、排尿反射、体温の調整・変動	19-20	赤松

教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野	科目名	口腔解剖学		
学年	1年次	学期	前期		
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2	単 位	
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)		
担当教員	山本 朗 仁 加納 史 也	大学病院で歯科医師としての実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
口腔周辺の各器官の形態や構造を理解することを目的とする。口腔の全般的な姿を正しくとらえるために、口腔の表面構造の他に、頭頸部の骨や筋の構造、脈管および神経の走行について教授する。					
授業の概要					
口腔の表面構造、口腔の土台をつくる骨、頭蓋の構造、口腔付近の筋肉、脈管、神経に分けて授業を進行する。主に、教科書やプリントを中心に説明する。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の部位を解剖学的に区別できる。 2. 口腔の方向用語部位を解剖学的に区別できる。 3. 頭蓋骨の構造を説明できる。 4. 口腔を構成する骨の構造を説明できる。 5. 顎関節の構造を説明できる。 6. 頭頸部における筋の構造と機能を説明できる。 7. 頭頸部構成する筋を各部位において列挙し、その作用を説明できる。 8. 咀嚼筋、表情筋の構成と機能を説明できる。 9. 頭頸部の脈管系を説明できる。 10. 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 11. 三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。 12. 頭頸部の骨、筋、血管、神経分布の相関性を説明できる。 13. 歯と歯周組織の発生を概説できる。 14. 歯の萌出と交換を概説できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	口腔の概要	口腔の表面構造(1)	口腔前庭と固有口腔の構造	1、2	山本
2	口腔の概要	口腔の表面構造(2)	舌、唾液腺、咽頭	1、2	山本
3	骨学	頭蓋の構造(1)	脳頭蓋を構成する骨	3、4	山本
4	骨学	頭蓋の構造(2)	脳頭蓋を構成する骨	3、4	山本
5	骨学	口腔の土台をつくる骨(1)	顔面頭蓋を構成する骨	3、4	山本
6	骨学	口腔の土台をつくる骨(2)	顔面頭蓋を構成する骨	3、4	山本
7	筋学	口腔の壁をつくる筋肉(1)	表面筋、舌骨上筋	5,6,7,8	山本
8	筋学	口腔の壁をつくる筋肉(2)	咀嚼筋	5,6,7,8	山本
9	脈管学	頭頸部の脈管(1)	顎顔面の動静脈分布	9	山本
10	脈管学	頭頸部の脈管(2)	口腔組織の動静脈分布	9	山本
11	末梢神経学	頭頸部の神経(1)	脳神経の分布	10,11,12	山本
12	末梢神経学	頭頸部の神経(2)	口腔組織の神経分布	10,11,12	山本
13	口腔組織学	顔面と口腔の発生(1)	顔面の発生、鰓弓の形成	13,14	加納

14	口腔組織学	顔面と口腔の発生(2)	口蓋・舌・腺の形成	13,14	加納
15	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の発生(1)	歯の発生、歯胚の形成	13,14	加納
16	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の発生(2)	歯の形成、歯の萌出と交換	13,14	加納
教科書					
歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					
12色程度の色鉛筆持参					

科目分野	専門基礎分野		科目名	歯の解剖学	
学年	1年次		学期	後期	
時間数	16 時間 (90分 × 8回)		単位数	1 単位	
授業形態	講義、実習		使用場所	2F教室(1)	
担当教員	加納 史也	大学病院で歯科医師としての実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
口腔周辺の各器官の形態や構造を理解することを目的とする。口腔の全般的な姿を正しくとらえるために、口腔組織の発生、歯と歯周組織の微細な組織構造と機能を理解する。					
授業の概要					
口腔組織の発生、歯と歯周組織の微細な組織構造と機能を教科書やプリントを用いて説明する。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯と歯周組織の発生を概説できる。 2. 歯の硬組織の形成を概説できる。 3. 歯種別の形態と特徴を説明できる(歯式を含む)。 4. 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。 5. 歯の硬組織の組織学的構造と機能を説明できる。 6. 歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。 7. 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。 8. 歯種を鑑別できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	口腔組織学	歯の構造と機能	エナメル質の形成過程と組織学的構造	1、2、5	加納
2	口腔組織学	歯の構造と機能	象牙質、歯髄の形成過程と組織学的構造	1、2、5、6	加納
3	口腔組織学	歯周組織の構造と機能	セメント質、歯根膜の組織学的構造	1、2、7	加納
4	口腔組織学	歯周組織の構造と機能	歯肉、歯槽骨の組織学的構造	1、2、7	加納
5	口腔組織学	歯牙解剖	前歯の機能、特徴	3、8	福井
6	口腔組織学	歯牙解剖	臼歯の機能、特徴	3、8	福井
7	口腔組織学	歯牙解剖	乳歯の機能、特徴	4	福井
8	試験		歯牙鑑別	1～8	福井
教科書					
歯科衛生学シリーズ口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(全国歯科衛生士教育協議会編)(医歯薬出版)					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					
12色程度の色鉛筆持参					

科目分野	専門基礎分野		科目名	病理学	
学年	1年次		学期	前期	
時間数	16 時間 (90 分 × 8 回)		単位数	1 単 位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)	
担当教員	永尾 瑠佳	大学病院で歯科医師としての実務経験あり			
授業の目的(GIO) 疾患の概念や病因と病態に関する基本的知識を習得する					
授業の概要 病気というものを理解するための最も基本的な知識を習得し、全身及び口腔に発生する様々な疾患の病因・病態さらに病理組織学的特徴について理解を深める					
到達目標(SBOs) <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の意義について概説できる 2. 内因と外因について理解する 3. 遺伝性疾患と先天異常について理解する 4. 退行性病変(細胞の障害)について理解する 5. 細胞のネクロシスとアポトーシスの違いについて概説できる 6. 進行性病変(増殖と修復)について理解する 7. 循環障害の種類及びその特徴について説明できる 8. 炎症の定義・種類・予後について理解する 9. 免疫異常について概説できる 10. 腫瘍の定義・分類について理解する 11. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて概説できる 12. 腫瘍細胞の病理組織学的特徴を理解する 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	病理学序論と病因論 遺伝性疾患と先天異常	疾患の多様性、疾病と病態	病理学とはどのような学問か理解する。病気の病因について理解する。	1, 2	永尾
2	循環障害	遺伝と遺伝性疾患、奇形の発生	遺伝とは何か、遺伝性疾患や奇形の種類、成因について理解する。	3	永尾
3	代謝障害と退行性病変	血液の循環、循環障害の種類	循環障害の定義、種類及び全身的影響について理解する。	7	永尾
4	増殖と修復	細胞障害、変性と萎縮、細胞死	変性・壊死・萎縮・細胞障害について理解する。	4, 5	永尾
5	炎症と免疫応答異常①	肥大と過形成、化生、創傷治癒	肥大と過形成、化生、創傷治癒や組織修復について理解する。	6	永尾
6	炎症と免疫応答異常②	炎症、免疫応答、アレルギー	炎症の症状・原因・種類・経過と転帰について理解する。	8, 9	永尾
7	腫瘍	腫瘍の発生・種類と性質・診断	腫瘍とはどんなものかを理解する。良性と悪性の違いを理解する。	10, 11, 12	永尾
8	まとめ	これまでの総括	総論・まとめ	-	永尾
教科書 歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)					
参考書 特に指定はしない。必要な資料は適宜配布する。					
試験の受験資格 3分の2以上の出席					
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	専門基礎分野		科目名	微生物学	
学年	1年次		学期	前期	
時間数	16 時間 (90分 × 8回)		単位数	1 単位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)	
担当教員	廣島 佑香	大学病院で歯科医師としての実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
う蝕や歯周疾患を代表とする口腔疾患の多くは、微生物感染による感染症である。微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基本的な知識、理論を身につける。					
授業の概要					
口腔領域および全身の感染症の原因となる微生物の形態、構造、病原性について学習する。口腔微生物学では、口腔領域の特殊性、口腔微生物叢やプラークの形成、口腔微生物の病原性とそれに対する宿主の防御機構、全身疾患との関連性などについて学ぶ。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類と分類を説明できる。 2. 感染の定義と成立要件および種類を理解できる。 3. 微生物(細菌・ウイルス・真菌)の形態、構造、病原因子について説明できる。 4. 化学療法の目的、種類および作用機序を説明できる。 5. 消毒法と滅菌法の種類と作用機序を説明できる。 6. 感染における唾液の役割について説明できる。 7. 口腔常在微生物叢について説明できる。 8. プラークの形成とその微生物叢を説明できる。 9. う蝕の発生機序、う蝕原性細菌と病原因子について説明できる。 10. 歯周病の分類と疫学、歯周病原細菌とその病原因子について説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	I編 微生物学	1章 微生物学の概要 2章 感染	微生物の種類と性質 感染の成立、感染の種類	1, 2	廣島
2	I編 微生物学	3章 微生物学総論 4章 微生物の培養、観察と検査	微生物の分類、培養法 微生物の構造と増殖	3	廣島
3	I編 微生物学	5章 化学療法	主な化学療法薬の種類と特徴	4	廣島
4	I編 微生物学	6章 消毒と滅菌	主な消毒法と滅菌法 標準予防策	5	廣島
5	II編 口腔微生物学	1章 口腔環境と常在微生物	微生物と口腔環境 口腔常在微生物	6, 7	廣島
6	II編 口腔微生物学	2章 バイオフィルムとしての プラーク	プラークの形成機序と成熟 バイオフィルム感染症	8	廣島
7	II編 口腔微生物学	3章 う蝕の細菌学	う蝕の発生機序 う蝕原性細菌と病原因子	9	廣島
8	II編 口腔微生物学	4章 歯周病の細菌学 5章 その他の口腔感染症	歯周病原細菌と病原因子 その他の口腔感染症	10	廣島
教科書					
歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版(全国歯科衛生士教育協議会編)(医歯薬出版)					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	専門基礎分野		科目名	薬理学	
学年	1年次		学期	前期	
時間数	28 時間 (90分 × 14回)		単位数	1 単位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)	
担当教員	森本 順子	徳島県立総合看護学校非常勤講師、市内4校学校薬剤師、市内薬局・薬店2店舗経営			
授業の目的(GIO)					
薬物の効果・副作用・相互作用や身体における薬物動態、薬物の取り扱い等の知識を身につけ、健康寿命の延長に貢献できる歯科衛生士になる					
授業の概要					
薬物治療の果たすべき役割を理解し、総論では用語の意味等基礎的知識を身につけ、各論ではそれぞれの疾病に用いる代表的な薬物の特徴、副作用、使用上の注意点等を修得し、臨床現場で役立てる様、概説する					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法、薬理作用の基本形式と分類について説明できる 2. 薬物の用量反応関係と薬用量の用語、薬理作用の機序について説明できる 3. 薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)、薬物動態のパラメーターについて説明できる 4. 薬物の適用方法の種類と特徴、生体利用能について説明できる 5. 薬物の作用に影響を与える因子について説明できる 6. 薬物の副作用、有害作用、薬物の取り扱い、法律について説明できる 7. 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン、ホルモンについて説明できる 8. 末梢神経系作用薬、自律神経の働き、自律神経作用薬の特徴、臨床応用、副作用について説明できる 9. 中枢神経系作用薬、全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗けいれん薬、向精神薬の特徴、副作用について説明できる 10. 循環器系作用薬、高血圧、不整脈、狭心症、脂質異常症治療薬の特徴・副作用について説明できる 11. 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物についてその特徴と臨床応用・副作用について説明できる 12. 止血機構についてと局所性止血薬、全身性止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について説明できる 13. 抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬の臨床応用、特徴、副作用について説明できる 14. 抗悪性腫瘍薬の分類、特徴、副作用について説明できる 15. 糖尿病治療薬と骨粗鬆症治療薬の特徴と副作用について説明できる 16. ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬の特徴と副作用について説明できる 17. 麻薬性鎮痛薬の特徴と臨床応用・副作用について説明できる 18. 局所麻酔薬の分類、適応法、有害作用について説明できる 19. 抗感染症薬の分類、抗感染症薬の作用機序と副作用について説明できる 20. 消毒薬の効果に影響を与える因子、消毒薬の分類・主な消毒薬について説明できる 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	I 編総論	1章 薬物の作用	薬物療法の種類、薬理作用の基本形式と分類、作用機序 薬物の用量反応関係と薬用量の用語	1,2	森本
2	I 編総論	2章 薬物動態 3章 薬物の適用方法と特徴	薬物の生体膜通過様式、吸収、分布、代謝、排泄、薬物動態のパラメーター 薬物の適用方法の種類 生物学的利用能	3,4	森本
3	I 編総論	4章 薬物の作用に影響を与える要因	生体の感受性、薬物の連用 薬物の併用、薬物相互作用	5	森本
4	I 編総論	5章 薬物の副作用・有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意	薬物の有害作用の分類と原因 副作用、有害作用の予防 ライフステージと薬物、服薬指導、添付文書	6	森本
5	I 編総論	7章 薬物の取り扱い 8章 薬物と法律、薬物と医薬品	医薬品の剤形、処方せん、薬物の保存方法 医薬品・医療機器等法日本薬局方 毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬の表示・保管	6	森本
6	II 編各論	1章 ビタミンとホルモン 2章 末梢神経系作用薬	脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン、ホルモン 末梢神経とは。自律神経作用薬 交感神経作用薬	7,8	森本

7	Ⅱ編各論	2章 末梢神経系作用薬 3章 中枢神経系作用薬	副交感神経作用薬、筋弛緩薬 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬	8,9	森本
8	Ⅱ編各論	3章 中枢神経系作用薬 4章 循環器系作用薬	抗けいれん薬、向精神薬、抗パーキンソン病薬 高血圧、不整脈、狭心症、脂質異常症治療薬	9,10	森本
9	Ⅱ編各論	5章 腎臓に作用する薬 6章 呼吸器系作用薬 7章 消化器系作用薬	腎臓の機能と生理、利尿薬 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬 消化性潰瘍治療薬、鎮痙薬	11	森本
10	Ⅱ編各論	8章 血液に作用する薬 9章 免疫と薬	止血機構、血液に関連する薬物 免疫に関連する薬物、抗アレルギー薬	12,13	森本
11	Ⅱ編各論	10章 悪性腫瘍と薬	悪性腫瘍の治療法 抗悪性腫瘍薬の種類、分類、副作用	14	森本
12	Ⅱ編各論	11章 代謝性疾患治療薬 12章 炎症と薬 13章 痛みと薬	糖尿病、骨粗鬆症の治療薬と副作用 ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬の分類と副作用 解熱鎮痛薬 麻薬性、非麻薬性鎮痛薬と副作用	15,16,17	森本
13	Ⅱ編各論	14章 局所麻酔薬 15章 抗感染症薬	局所麻酔薬の分類、適用法、副作用 抗感染症薬の作用機序と分類、副作用	18,19	森本
14	Ⅱ編各論	15章 抗感染症薬 16章 消毒に使用する薬	主な抗感染症薬の特徴と副作用 消毒薬の作用、分類、特徴、注意点	19,20	森本

教科書

歯科衛生学シリーズ 薬理学(疾患の成り立ち及び回復過程の促進3)
医歯薬出版株式会社

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、小試験および学期末試験の成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

積極的姿勢で授業に臨むこと。私語、居眠り厳禁。
必ず試験に合格してください。レポート提出で進級はできません。

科目分野	専門基礎分野	科目名	衛生・公衆衛生学
学年	1年次	学期	前期
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2 単位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	須磨 紫乃, 福井 誠	大学病院で歯科医師としての実務経験あり	

授業の目的(GIO)

人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し、生活環境の中に介在する種々の健康要因、疾病要因を理解し、保健・医療・介護を包括した問題解決方法の考え方を習得する。

授業の概要

健康の概念と公衆衛生の定義について、種々の保健統計（人口統計含む）について、疫学要因としての様々な環境要因（環境、感染症、食品、生活習慣）と健康との関連について教授する。

到達目標(SBOs)

1. 健康の定義と国民の権利を説明できる。
2. 健康づくりの理念を説明できる。
3. 社会環境（QOL, ノーマライゼーション, バリアフリー, 国際生活機能分類(ICF)）の理念を説明できる。
4. 第一次予防、第二次予防および第三次予防を説明できる。
5. 疫学の定義を説明できる。
6. 疾病や異常の発生要因（因子）を列挙できる。
7. 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる。
8. 疫学研究の方法を説明できる。
9. 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。
10. わが国と世界における人口の現状と推移を概説できる。
11. 人口統計における静態統計と動態統計を説明できる。
12. 人口構造を人口ピラミッドや各種指標を用いて説明できる。
13. 人口の高齢化を概説できる。
14. 生命表の概要を理解して、日本人の平均寿命の動向を説明できる。
15. 人間と環境の関係を説明できる。
16. 健康と環境の関係を説明できる。
17. 地球環境の変化とその対応を説明できる。
18. 公害問題とその原因物質を列挙できる。
19. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
20. 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる。
21. 感染予防・流行防止の基本的考え方と対策を説明できる。
22. 感染症対策上の問題点を説明できる。
23. 感染症の分類とその内容を説明できる。
24. 主な感染症とその動向を説明できる。
25. わが国の食中毒の分類の発生状況を説明できる。
26. 食中毒の分類と特徴を説明できる。
27. 食品の安全性確保のための方策を列挙できる。
28. 健康日本21（第二次）における食に関するわが国の政策を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	総論	保健生態学とは、健康の概念	健康とは、生活習慣と健康、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、健康日本21(第2次)	1, 2, 3	須磨
2	"	予防医学の概念	疾患の要因と自然的経過、予防医学の意義、予防法の適用、総合保険	4	須磨
3	疫学	疫学の定義及び概要	疫学とは、疾病や異常(健康障害)の発生要因、疾病の発生、流行状態を表す指標	5, 6, 7	須磨
4	"	疫学の研究方法	記述疫学, 分析疫学	8, 9	須磨
5	"	臨床疫学	介入疫学	8, 9	須磨

6	人口	人口の動向	世界の人口, わが国の人口	10	須磨
7	"	人口動態統計	出生に関する統計, 死亡に関する統計, 婚姻と離婚	11, 12, 13	須磨
8	"	生命表	生命表の概念, 平均余命と平均寿命	14	須磨
9	環境と健康	環境の概念, 空気・水と健康, 放射線と健康	外部環境, 内部環境, 主体-環境系, 量・影響関係と量・反応関係, 空気, 温熱環境, 水, 非電離放射線, 電離放射線(放射線)	15, 16	福井
10	"	住居・衣服と健康, 地球環境の変化と健康への影響	住居, 衣服, 地球温暖化, 酸性雨, オゾン層破壊, 砂漠化, 森林の減少	15, 16, 17	福井
11	"	公害と健康への影響, 廃棄物処理	大気の汚染, 水の汚染, 土壌の汚染, 騒音, 悪臭, 一般廃棄物, 産業廃棄物, 感染性廃棄物	18, 19	福井
12	感染症	感染症の成り立ち	感染と発病, 感染成立の三要因, 感染症の流行	20	福井
13	"	感染症の予防	感染症予防の基本概念, 感染症対策上の問題点, わが国における感染症対策	21, 22	福井
14	"	主な感染症の動向	一類感染症, 二類感染症, 三類感染症, 四類感染症, 五類感染症	23, 24	福井
15	食品と健康	食品保健	食中毒の疫学, 食中毒の分類, 食品の安全性確保	25, 26, 27	福井
16	"	栄養と健康	日本人の食事摂取基準, 国民栄養の現状と問題点, 健康づくりのための食生活指針と「食育」の推進	28	福井

教科書

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に係る人間と社会の仕組み1「保健生態学」
(全国歯科衛生士教育協議会監修) 医歯薬出版 (第1編 健康を左右する環境の範囲)

参考書

厚生省の指標、国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会編)、また、授業の進行に応じて参考書を紹介したり、プリントを配布する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合格を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

事前に授業内容を予習し、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

科目分野	専門基礎分野		科目名	口腔衛生学 I	
学年	1年次		学期	前期	
時間数	16 時間 (90 分 × 8 回)		単位数	1 単位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)	
担当教員	日野出 大輔	大学病院で歯科医師としての実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
口腔の健康を保持，増進させる理論と方法を理解し口腔疾患の予防法を習得する。					
授業の概要					
口腔衛生学は歯科衛生士にとって関係の深い科目である。口腔の健康を保持，増進させるための歯科衛生士の役割とは何かを，総論，歯・口腔の構造と機能，付着物と沈着物および口腔疾患の予防法の点から学ぶ。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の健康の定義を説明できる 2. 口腔と全身の健康の関係を説明できる 3. 第1次予防，第2次予防および第3次予防を説明できる 4. 歯，口腔の健康を保持増進する手段を概説できる 5. 歯，口腔の形成および発育・発達とその異常を説明できる 6. 歯，口腔の形成異常を説明できる 7. 歯，口腔の機能を説明できる 8. 唾液の作用を説明できる 9. 歯，口腔の付着物と沈着物を説明できる 10. 歯科疾患の疫学的特性を概説できる 11. 口腔清掃の意義を説明できる 12. 口腔清掃法の種類を列挙できる 13. 口腔清掃用具の種類と特徴を説明できる 14. 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を説明できる 15. 歯磨剤の種類と組成及びその配合目的を説明できる 16. 洗口剤の種類と組成及びその配合目的を説明できる 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	健康と予防	健康および予防医学の概念	健康の定義，プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション，予防法の適応	1,2,3	日野出
2	歯・口腔の健康と予防	口腔衛生学，健康増進・歯科疾患の予防	歯・口腔の健康保持のステップ，健康増進・歯科疾患の予防のための対応	3,4	日野出
3	歯・口腔の構造と機能	歯・口腔の構造，発生と成長・発育	歯と歯周組織をはじめ口腔の構造，発生や成長発育について	5,6,7	日野出
4	歯・口腔の機能，全身の健康との関連	歯・口腔の機能，口腔の健康と全身の健康	唾液の役割，歯科疾患と全身の健康，全身疾患と口腔の健康	2,7,8	日野出
5	歯・口腔の付着物・沈着物	プラーク，歯石	プラーク，歯石の成立とその為害性	9	日野出
6	歯・口腔の付着物・沈着物 歯科疾患の疫学	ペリクル，食物残渣，舌苔， 外来性色素沈着物 歯科疾患の疫学	ペリクル，食物残渣，舌苔， 外来性色素沈着物の成立とその為害性 歯科疾患の疫学的特徴について	9,10	日野出
7	口腔清掃	口腔清掃の意義，プラークコントロール	口腔清掃の意義，目的	11,12	日野出
8	口腔清掃	口腔清掃法，人工的清掃法の分類と用具，歯磨剤，洗口剤	ブラッシング指導に必要な知識について	12,13,14, 15,16	日野出
教科書					
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1 保健生態学（I編1章，II編1～3章）					
参考書					

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度, 出席状況を加味して, 学期末試験成績を主に評価し合否を判定する. 100点満点中60点以上を合格とする.

備考

科目分野	専門分野	科目名	歯科衛生士概論
学年	1年次	学期	前期
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2 単位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	伊賀 弘起(大学病院で歯科医師としての実務経験あり) 福井 かおり(歯科診療所で歯科衛生士としての実務経験あり)		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士業務を通して対象者の健康づくりに寄与できる医療従事者としての基本的態度を理解する。また多様な知識や技術を主体的に学ぼうとする態度や、論理的思考を用いて問題解決を図ることができる基礎を習得する。

授業の概要

歯科衛生学の概要, 歯科衛生の歴史と現況、歯科衛生と健康、生活習慣と健康、歯科衛生士法と関係する法規、歯科衛生士と倫理、歯科衛生実践のための理論、歯科衛生実践の展開、医療安全確保における歯科衛生士の役割、保健・医療・福祉の制度と多職種連携、災害時における歯科衛生活動、歯科衛生士の国際化、組織活動、歯科衛生士のキャリア形成

到達目標(SBOs)

1. 歯科衛生の定義を説明できる。
2. 歯科衛生士が行う口腔健康管理を説明できる。
3. 歯科衛生実践を説明できる。
4. 日本の歯科衛生の歴史を概説できる。
5. 歯科衛生士の誕生と経緯を概説できる。
6. 歯科衛生実践の現況を概説できる。
7. 歯科衛生と健康の関係を概説できる。
8. 健康と予防の定義を説明できる。
9. 口腔保健の世界戦略を概説できる。
10. 日本の健康づくり運動と歯科口腔保健の推進を概説できる。
11. ライフコースアプローチを説明できる。
12. 生活習慣と健康の関係を概説できる。
13. 歯科衛生士法における歯科衛生業務について概説できる。
14. 歯科衛生士の業務独占について説明できる。
15. 歯科衛生士の名称独占について説明できる。
16. 歯科衛生士の法的義務について説明できる。
17. 歯科衛生業務に関連する法規を列挙できる。
18. 医の倫理について概説できる。
19. 歯科衛生と倫理について説明できる。
20. 理論的思考を説明できる。
21. 批判的思考を説明できる。
22. EBM、NBM、ICFを説明できる。
23. 健康信念モデル、変化のステージモデル、自己効力感、動機づけ面接を説明できる。
24. ヒューマンニーズ理論を説明できる。
25. インフォームド・コンセントについて説明できる。
26. インフォームド・チョイスについて説明できる。
27. セカンドオピニオンについて説明できる。
28. プロフェッショナルリズムについて説明できる。
29. 歯科衛生実践において歯科衛生過程を活用する意識を説明できる。
30. 歯科衛生過程に関わる問題解決の思考プロセスを概説できる。
31. 歯科衛生過程の一連のプロセスを説明できる。
32. 歯科衛生実践をリフレクションする意義を説明できる。
33. 歯科衛生実践を記録(書面化)する意義を説明できる。
34. 安全管理の必要性を説明できる。
35. 安全管理についての法的責任について説明できる。
36. 医療保険制度、介護保険制度の仕組みを概説できる。
37. 地域包括ケアシステムについて説明できる。

38. 歯科衛生士の活動領域について説明できる。
39. 多職種連携に関わる職種を説明できる。
40. 災害関連死を説明できる。
41. 災害時の歯科衛生士の役割を説明できる。
42. 平時からの災害対策を説明できる。
43. 国際活動の意義について説明できる。
44. 国際協力、国際交流の仕組みを説明できる。
45. 歯科衛生士の組織活動を説明できる。
46. 職能団体の活動内容や意義を説明できる。
47. 歯科衛生士のキャリアアップと関連する制度について概説できる。
48. キャリア形成の必要性を説明できる。
49. 卒後研修の必要性を説明できる。
50. 歯科衛生研究の必要性を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	序章 歯科衛生学を学ぶにあたって 1章 歯科衛生学とは	歯科衛生学を学ぶ目的 歯科衛生の定義、歯科衛生学の体系	口腔保健管理、歯科衛生実践など	1-3	福井
2	2章 歯科衛生の歴史	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生実践の現況	歯科衛生の歴史的背景、歯科衛生士の誕生、歯科衛生士の動向、歯科衛生士が活躍する場など	4-6	福井
3	3章 歯科衛生と健康	健康の考え方	WHOによる健康の定義、健康日本21(第三次)、予防の考え方、生涯にわたる健康支援	7-11	福井
4	3章 歯科衛生と健康	生活習慣と健康 健康増進への関与	歯科における現況、介護における現況 生活習慣病予防、高齢者の保健事業と介護予防	12	福井
5	4章 歯科衛生士法と関係する法規	歯科衛生士法の位置づけ	歯科衛生士法、業務独占と名称独占業務上の義務	13-16	福井
6	4章 歯科衛生士法と関係する法規	関係法規	医療法、歯科医師法、歯科技工士法、保健師助産師看護師法など 法的責任と制度	17	伊賀
7	5章 歯科衛生士倫理	倫理の必要性 医の倫理と患者の権利	医師の職業倫理 人を対象とする医学研究の倫理 患者の権利	18, 19	伊賀
8	5章 歯科衛生士倫理	患者の自己決定権 倫理綱領	インフォームド・コンセント インフォームド・チョイス セカンドオピニオンなど	18, 19	伊賀
9	6章 歯科衛生実践のための理論	理論の考え方と活用法 健康行動に関する理論・モデル ヒューマンニーズ理論	理論的思考、批判的思考、EBM、NBM、ICF、健康信念モデル、プリシード・プロシードモデル、変化のステージモデル、動機づけ面接、	20-24	福井
10	7章 歯科衛生実践の展開	歯科衛生士として求められる能力 歯科衛生過程	プロフェッショナリズム、歯科衛生過程の意義、歯科衛生過程の流れ、記録(書面化)	28-33	福井
11	8章 医療安全確保における歯科衛生士の役割	医療安全に関する法律 安全管理の必要性	インシデント(ヒヤリ・ハット)とアクシデント 医療事故	34, 35	伊賀
12	8章 医療安全確保における歯科衛生士の役割	感染予防対策	スタンダードプリコーション 感染経路予防策など	34, 35	伊賀

13	9章 保健・医療・福祉の制度と多職種連携	歯科衛生活動に関連する制度・法律 地域包括ケアシステム 歯科衛生士の実践的な活動	社会保障制度、社会保険、地域保健に関する法律、歯科口腔保健の推進に関する法律、地域包括ケアシステムなど	36-39	福井
14	10章 災害時における歯科衛生活動 11章 歯科衛生士の国際化	わが国の災害と歯科 災害時の歯科保健医療活動 国際活動の意義 健康と歯科保健の世界的課題	支援活動の仕組み、歯科専門職が災害時に行う活動、災害への備え、世界の健康課題、国際協力、歯科専門職の国際交流	40-44	福井
15	12章 組織活動	歯科衛生士の専門職組織 専門学会における歯科衛生士の学習機会	日本歯科衛生士会、日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、認定歯科衛生士制度	45-47	福井
16	13章 歯科衛生士のキャリア形成	キャリア形成の必要性と方法 歯科衛生研究	キャリア、歯科衛生士のキャリア形成 卒後研修の重要性、認定制度、歯科衛生研究の必要性	48-50	福井

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論(医歯薬出版株式会社)

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野	科目名	臨床歯科総論		
学年	1年次	学期	前期		
時間数	28 時間 (90 分 × 14 回)	単位数	1	単 位	
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)		
担当教員	湯本浩通, 長谷川 智一, 田中 栄二, 市川 哲雄, 宮本 洋二		大学病院で歯科医師としての実務経験あり		
授業の目的(GIO)					
歯科医学・歯科臨床における各分野の概要と歯科患者に対する主な治療の流れを理解し, 説明できる。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歯科医療制度の基本事項, および歯科患者に対する歯科医療の仕組みや治療の流れを概説する。 歯科医学・歯科臨床の各分野の概要, および歯科患者に対する各分野の主な治療の流れを概説する。 					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医学・歯科医療における基本的事項を理解し, 説明できる。 2. 歯科臨床における歯科衛生士の役割の概要を理解し, 説明できる。 3. 歯科保存学の概要を理解し, 説明できる。 4. 診査・診断に基づく主な歯科保存治療(修復・歯内・歯周病治療)の流れを理解し, 説明できる。 5. 小児歯科学の概要を理解し, 説明できる。 6. 診査・診断に基づく主な小児歯科治療の流れを理解し, 説明できる。 7. 歯科矯正学の概要を理解し, 説明できる。 8. 診査・診断に基づく主な歯科矯正治療の流れを理解し, 説明できる。 9. 歯科補綴学の概要を理解し, 説明できる。 10. 診査・診断に基づく主な歯科補綴治療の流れを理解し, 説明できる。 11. 口腔外科学の概要を理解し, 説明できる。 12. 診査・診断に基づく主な口腔外科治療の流れを理解し, 説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	臨床歯科医学	臨床歯科総論	歯科医学・歯科医療の基本的事項-1	1	湯本浩通
2	臨床歯科医学	臨床歯科総論	歯科医学・歯科医療の基本的事項-2	2	湯本浩通
3	臨床歯科医学	咀嚼障害・咬合異常	歯科補綴学・歯科補綴治療の概要-1	9	市川哲雄
4	臨床歯科医学	咀嚼障害・咬合異常	歯科補綴学・歯科補綴治療の概要-2	10	市川哲雄
5	臨床歯科医学	歯・歯髄組織の疾患と治療	保存修復学・保存修復治療の概要	3,4	湯本浩通
6	臨床歯科医学	歯・歯髄組織の疾患と治療	歯内療法学・歯内療法の概要	3,4	湯本浩通
7	臨床歯科医学	口腔に生じる外科的疾患	口腔外科学・口腔外科治療の概要-1	11	宮本洋二
8	臨床歯科医学	口腔に生じる外科的疾患	口腔外科学・口腔外科治療の概要-2	12	宮本洋二
9	臨床歯科医学	不正咬合と治療	矯正歯科学・矯正歯科治療の概要-1	7	田中栄二
10	臨床歯科医学	不正咬合と治療	矯正歯科学・矯正歯科治療の概要-2	8	田中栄二
11	臨床歯科医学	小児の理解と歯科治療	小児歯科学・小児歯科治療の概要-1	5	長谷川智一
12	臨床歯科医学	小児の理解と歯科治療	小児歯科学・小児歯科治療の概要-2	6	長谷川智一
13	臨床歯科医学	歯周組織の疾患と治療	歯周病学・歯周治療の概要	3,4	湯本浩通
14	臨床歯科医学	臨床歯科総論	臨床歯科総論のまとめ	1,2	湯本浩通

教科書

松井恭平・森崎市治郎, 白鳥たかみ, 船奥律子編「歯科衛生士のための歯科臨床概論」(医歯薬出版株式会社)

参考書

授業中に紹介する場合がある。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

授業内容は各講師に一任されているので、内容等で不明な点があれば、事前に学院担当教員を介して質問すること。また授業前に参考資料が配付された場合は必ず持参すること。

科目分野	専門分野	科目名	う蝕予防処置法 I		
学年	1年次	学期	通年		
時間数	12 時間 (90 分 × 6 回)	単位数	単 位		
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(1)、実験室		
担当教員	溝江 里美	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り			
授業の目的(GIO)					
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・向上させるための専門的な知識、技術、態度を習得する。					
授業の概要					
う蝕の基礎知識、フッ化物の応用法を習得する。					
到達目標(SBOs)					
1. う蝕の原因と進行(プロセス)を説明できる 2. う蝕の予防方法を説明できる 3. フッ化物応用法を説明できる。					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	Ⅱ編2章 う蝕の基礎知識	う蝕	う蝕の分類,進行	1,2	溝江
2	Ⅱ編2章 う蝕の基礎知識	う蝕	う蝕の原因	1,2	溝江
3	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用	フッ化物歯面塗布	3	溝江
4	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用	フッ化物歯面塗布	3	溝江
5	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用	フッ化物洗口	3	溝江
6	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用	フッ化物洗口	3	溝江
教科書					
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度, 出席状況, 講義中の小テスト(筆記)等を総合的に評価する。					
備考					

科目分野	専門分野		科目名	歯周病予防処置法 I	
学年	1年次		学期	通年	
時間数	138 時間 (90分 × 69回)		単位数	単位	
授業形態	講義、実習		使用場所	2F教室(1)、実習室	
担当教員	溝江 里美		歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り		
授業の目的(GIO)					
口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・向上させるために、専門的な知識、技術および態度を修得する。					
授業の概要					
口腔の基礎知識、歯周病の基礎知識、歯科衛生介入としての歯科予防処置について修得する。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科予防処置の概念と内容を理解する。 2. 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる。 3. 歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる。 4. 摂食嚥下の仕組みを概説できる。 5. 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。 6. プラークおよび歯石の形成過程と成分を説明できる。 7. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。 8. 歯周病と全身疾患との関連を説明できる。 9. 口腔の機能的な問題を把握できる。 10. 口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 11. 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる。 12. スケーラーの種類と使用目的を説明できる。 13. シックル型スケーラーを操作できる。 14. キュレット型スケーラーを操作できる。 15. 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる。 16. 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。 17. 歯面清掃・歯面研磨ができる。 18. プローブの種類と操作方法を説明できる。 19. プローブを操作できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	I 編1章 歯科予防処置の概要	歯科予防処置の必要性 定義,位置づけ	歯科衛生業務,歯科予防処置とは	1,2	溝江
2	I 編1章 歯科予防処置の概要	歯科予防処置の必要性 定義,位置づけ	歯科衛生業務,歯科予防処置とは	1,2	溝江
3	II 編1章 歯科予防処置の基礎知識	口腔の基礎知識	口腔の構造,歯周組織	3	溝江
4	II 編1章 歯科予防処置の基礎知識	口腔の基礎知識	口腔の構造,歯周組織	3,4	溝江
5	II 編1章 歯科予防処置の基礎知識	口腔の基礎知識	歯冠と歯根の形態,口腔の機能	3,4	溝江
6	II 編1章 歯科予防処置の基礎知識	口腔の基礎知識	歯冠と歯根の形態,口腔の機能	3,4	溝江
7	II 編2章 歯周病の基礎知識	口腔内の付着物・沈着物	ペリクル,食物残渣,プラーク,歯石 ステイン,舌苔	5,6	溝江
8	II 編2章 歯周病の基礎知識	口腔内の付着物・沈着物	ペリクル,食物残渣,プラーク,歯石 ステイン,舌苔	5,6	溝江
9	II 編2章 歯周病の基礎知識	歯周病	歯周病の分類,臨床的特徴	7	溝江
10	II 編2章 歯周病の基礎知識	歯周病	歯周病の分類,臨床的特徴	7	溝江
11	III 編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯科機器の使用法	歯科機器の操作法	12	溝江

12	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯科機器の使用法	歯科機器の操作方法	12	溝江
13	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング	手用スケーラーの構成 基本姿勢	12	溝江
14	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング	手用スケーラーの種類と操作方法	12	溝江
15	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	机上訓練	13	溝江
16	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	机上訓練	13	溝江
17	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 下顎前歯部	13	溝江
18	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 下顎前歯部	13	溝江
19	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 上顎前歯部	13	溝江
20	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 上顎前歯部	13	溝江
21	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	13	溝江
22	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	13	溝江
23	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 上顎臼歯部	13	溝江
24	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 上顎臼歯部	13	溝江
25	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 復習	13	溝江
26	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 復習	13	溝江
27	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 復習	13	溝江
28	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	シックル型スケーラー	マネキン実習 復習	13	溝江
29	実技確認テスト①	シックル型スケーラー			溝江
30	実技テスト フィードバック	シックル型スケーラー			溝江
31	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	口腔内の観察,検査項目	9, 10	溝江
32	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	口腔内の観察,検査項目	9, 10	溝江
33	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	歯周ポケット	11, 18, 19	溝江
34	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	歯の動揺度,口臭	11, 18, 19	溝江
35	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	机上でのポケット,動揺度測定	19	溝江
36	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔の器質的問題の把握	机上でのポケット,動揺度測定	19	溝江
37	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	グレーシー型・ユニバーサル型	12	溝江
38	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	グレーシー型・ユニバーサル型	12	溝江
39	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎前歯部	14	溝江
40	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎前歯部	14	溝江
41	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎前歯部	14	溝江

42	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎前歯部	14	溝江
43	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	14	溝江
44	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	14	溝江
45	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	14	溝江
46	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 下顎臼歯部	14	溝江
47	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎臼歯部	14	溝江
48	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎臼歯部	14	溝江
49	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎	14	溝江
50	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 上顎	14	溝江
51	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 復習	14	溝江
52	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	キュレット型スケーラー	マネキン実習 復習	14	溝江
53	実技テスト	スケーラー			溝江
54	実技テスト				溝江
55	フィードバック				溝江
56	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨・歯面清掃	講義	15, 16	溝江
57	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨・歯面清掃	講義	15, 16	溝江
58	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨・歯面清掃	マネキン実習	17	溝江
59	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	歯面研磨・歯面清掃	マネキン実習	17	溝江
60	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔内観察 歯面研磨	相互実習 下顎	10, 17	溝江
61	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	口腔内観察 歯面研磨	相互実習 下顎	10, 17	溝江
62	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 プロービング	相互実習 下顎	19	溝江
63	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 プロービング	相互実習 下顎	19	溝江
64	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 プロービング	相互実習 上顎	19	溝江
65	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 プロービング	相互実習 上顎	19	溝江
66	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 シクルスケーラー	相互実習 下顎前歯部	13	溝江
67	Ⅲ編3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	相互実習 シクルスケーラー	相互実習 下顎前歯部	13	溝江
68	定期試験				溝江
69	フィードバック				溝江

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版

参考書**試験の受験資格**

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度, 出席状況, 確認テスト(筆記)、実技チェックテストの結果を総合的に評価する。

備考

科目分野	専門分野	科目名	歯科保健指導 I		
学年	1年次	学期	通年		
時間数	110 時間 (90 分 × 55 回)	単位数	単 位		
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(1)、ファントム実習室		
担当教員	寺西 菜実	歯科診療所で歯科衛生士としての実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要なプロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。					
授業の概要					
歯科保健指導の概要、食生活指導のための基礎知識、保健行動支援のための基礎知識 歯科衛生介入としての歯科保健指導、地域歯科保健活動における健康教育について など					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の健康推進施策を理解できる。 2. 歯科保健指導の法的位置づけを説明できる。 3. 歯科保健指導の業務(歯科衛生実践)を概説できる。 4. 口腔健康管理の概念と内容を説明できる。 5. 医療保険制度における歯科保健指導を理解できる。 6. 他職種が行う保健指導を理解できる。 7. コミュニケーションスキルを理解できる。 8. 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。 9. 保健行動と行動変容の手法を理解できる。 10. 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。 11. 口腔衛生管理に関するブラッシング方法を説明できる。 12. 口腔衛生管理に関するブラッシング方法を実践できる。 13. 歯磨剤、洗口液・洗口剤、義歯洗浄剤、義歯安定剤、保湿剤の特徴を説明できる。 14. 歯科衛生介入に関連する検査方法を実施できる。 15. 口腔機能管理に関する指導について説明できる。 16. 非感染性疾患(NCDs)の症例に合わせた歯科保健指導について理解できる。 17. 禁煙指導・支援について理解できる。 18. 食品とう蝕の関連性を説明できる。 19. 健康を維持するための栄養情報を説明できる。 20. う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。 21. 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。 22. 咀嚼の働きを説明できる。 23. ストレスマネジメントについて理解できる。 24. 健康教育の対象と場の特徴を概説できる。 25. 健康教育の評価を説明できる。 26. 健康教育活動の方法を説明できる。 27. 健康教育に必要な情報を収集できる。 28. 地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。 29. 健康教育の計画立案ができる。 30. 地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	総論	わが国の健康施策	健康日本21(第三次)健康教育	1	寺西
2	歯科保健指導論で学ぶこと	歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ	歯科保健指導、口腔健康管理	2, 3	寺西
3	歯科保健指導論で学ぶこと	歯科衛生実践の進め方	口腔健康管理、歯科衛生過程の展開	3, 4	寺西
4	歯科保健指導論で学ぶこと	医療保険制度における歯科保健指導、他職種が行う保健指導	国民皆保険制度、保健師が行う保健指導 管理栄養士が行う栄養指導	5, 6	寺西

5	保健行動支援のための基礎知識	コミュニケーションスキル	コミュニケーションとは 医療におけるコミュニケーションスキル	7	寺西
6	保健行動支援のための基礎知識	行動変容に関連する理論	健康信念モデル、学習理論 社会認知理論	8, 9	寺西
7	保健行動支援のための基礎知識	行動変容に関連する理論	行動変容ステージモデル	8, 9	寺西
8	保健行動支援のための基礎知識	行動変容を促す理論の実践	ストレスとストレス・コーピング 認知行動療法、動機づけ面接	8, 9	寺西
9	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	歯ブラシ、歯磨剤	10, 13	寺西
10	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブ ラシ	10	寺西
11	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	ブラッシングの方法(ファントム実習)	11, 12	寺西
12	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	ブラッシングの方法(ファントム実習)	11, 12	寺西
13	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	歯垢染色法、PCR	14	寺西
14	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	口腔内観察 ブラッシング(歯垢染色法、PCR)	12, 14	寺西
15	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	口腔内観察 ブラッシング(歯垢染色法、PCR)	12, 14	寺西
16	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	口腔内観察、ブラッシング(歯垢染色 法、PCR)、デンタルフロス	12, 14	寺西
17	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	口腔内観察、ブラッシング(歯垢染色 法、PCR)、デンタルフロス	12, 14	寺西
18	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ	10	寺西
19	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	義歯用ブラシ、介助用口腔衛生用品 洗口液・洗口剤	10, 13	寺西
20	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔機能に関わる指導	口腔機能の発達に関連する指導	15	寺西
21	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔機能に関わる指導	口腔機能の低下に関連する指導	15	寺西
22	歯科衛生介入としての 保健指導	生活習慣の指導	非感染性疾患(NCDs)	16	寺西
23	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ	10	寺西
24	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔衛生管理に関わる指導	義歯用ブラシ、介助用口腔衛生用品 洗口液・洗口剤	10, 13	寺西
25	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔機能に関わる指導	口腔機能の発達に関連する指導	15	寺西
26	歯科衛生介入としての 保健指導	口腔機能に関わる指導	口腔機能の低下に関連する指導	15	寺西
27	歯科衛生介入としての 保健指導	生活習慣の指導	非感染性疾患(NCDs)	16	寺西
28	歯科衛生介入としての 保健指導	生活習慣の指導	喫煙者に対する指導1	17	寺西
29	歯科衛生介入としての 保健指導	生活習慣の指導	喫煙者に対する指導2	17	寺西
30	まとめ				寺西
31	実技チェックテスト		各ブラッシング方法、清掃補助用具	10, 11, 12	寺西
32	実技チェックテスト		各ブラッシング方法、清掃補助用具	10, 11, 12	寺西
33	フィードバック				寺西
34	歯科衛生介入としての 保健指導	食生活の指導	食品とう蝕誘発性	18	寺西

35	歯科衛生介入としての保健指導	食生活の指導	代用甘味料	19	寺西
36	歯科衛生介入としての保健指導	食生活の指導	う蝕予防のための食品の摂取方法	20	寺西
37	歯科衛生介入としての保健指導	食生活の指導	歯周病と食生活 酸蝕症と食生活	21	寺西
38	歯科衛生介入としての保健指導	食生活の指導	食生活と咀嚼	22	寺西
39	歯科衛生介入としての保健指導	ストレスマネジメント	ストレスサー、認知的評価・対処能力 ストレス反応に対する対処	23	寺西
40	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の概要 健康教育の進め方	健康教育の目標 PDCAサイクルなど	24	寺西
41	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の方法	受動的・能動的な方法 媒体(教材)の活用、健康教育の評価	25-27	寺西
42	地域歯科保健活動のフィールド	保育所(園)・幼稚園	保育所(園)と幼稚園の教育課程 健康教育	28	寺西
43	地域歯科保健活動のフィールド	保育所(園)・幼稚園	学習指導案	29, 30	寺西
44	地域歯科保健活動のフィールド	学校 (小学校・中学校・高等学校)	学校の教育課程, 歯科保健指導	28	寺西
45	地域歯科保健活動のフィールド	学校 (小学校・中学校・高等学校)	学習指導案	29, 30	寺西
46	地域歯科保健活動のフィールド	事業所	トータル・ヘルスプロモーション・プラン 特定健康診査・特定保健指導	28	寺西
47	地域歯科保健活動のフィールド	保健所・市町村保健センター	市町村における健康づくり 地域支援事業における介護予防事業	28, 30	寺西
48	地域歯科保健活動のフィールド	地域・病院・施設	特定健康診査・特定保健指導 市町村における健康づくりなど	28, 30	寺西
49	地域歯科保健活動のフィールド	地域・病院・施設	ソーシャルキャピタル 病院・施設における歯科衛生士の活動	28, 30	寺西
50	地域歯科保健活動のフィールド	学習指導案①	学習指導案作成(グループワーク)	27, 29, 30	寺西
51	地域歯科保健活動のフィールド	学習指導案②	学習指導案作成(グループワーク)	27, 29, 30	寺西
52	地域歯科保健活動のフィールド	媒体作成	幼稚園・小学校低学年集団 歯科保健指導	27, 29, 30	寺西
53	地域歯科保健活動のフィールド	媒体作成	幼稚園・小学校低学年集団 歯科保健指導	27, 29, 30	寺西
54	期末試験				寺西
55	解説・まとめ		期末試験解説		寺西

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)

参考書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学(医歯薬出版)

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況、実技チェックテスト、課題の取り組み・提出の結果を総合的に評価し合否を判定する。

備考

科目分野	専門分野	科目名	歯科診療補助法 I
学年	1年次	学期	通年
時間数	150 時間 (90 分 × 75 回)	単位数	単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(1)、実験室、実習室
担当教員	寺西 菜実	歯科診療所で歯科衛生士としての実務経験あり	
授業の目的(GIO)			
さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために必要である、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。			
授業の概要			
歯科診療補助の概念、医療安全と感染予防、歯科診療における基礎知識、歯科診療で扱う歯科材料など			
到達目標(SBOs)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助の業務内容と法的位置づけを説明できる。 2. 診療の補助を行う他の医療職種とその業務について説明できる。 3. 保健医療制度での補助行為に関する業務概要について説明できる。 4. 歯科診療における医療安全と対策を説明できる。 5. インシデント・アクシデント報告の目的を具体的に述べるができる。 6. 感染事故時の対応を判断できる。 7. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる。 8. 手指消毒やグローブの装着・脱着が実施できる。 9. 滅菌と消毒の定義が説明できる。 10. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。 11. 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。 12. 医療廃棄物の分類と分別ができる。 13. 歯科診療室の環境、設備が整えられる。 14. 歯科診療所における患者対応を説明できる。 15. 共同動作の概念を述べるができる。 16. 適切なポジショニングを実施できる。 17. 診療に応じた器具の受け渡しができる。 18. フォーハンドテクニックの基本動作ができる。 19. バキュームの基本動作を実施できる。 20. 歯科薬品や材料の適切な管理を説明できる。 21. ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる。 22. ラバーダム防湿を実施できる。 23. 印象材の特徴・種類・用途を説明できる。 24. 各種印象材を練和と管理を実施できる。 25. 概形印象の採得ができる。 26. 歯科用石膏の特徴・種類・用途を説明できる。 27. 歯科用石膏の取り扱いができる。 28. 合着・接着材・仮着用材料の特徴・種類・用途を説明できる。 29. 各種合着・接着材・仮着用材料の練和と余剰セメントの除去を実施できる。 30. コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。 31. グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。 32. 仮封材と仮着剤の特徴・種類・用途を説明できる。 33. 仮封材の練和と余剰セメントの除去を実施できる。 34. ワックスの特徴・種類・用途を説明できる。 35. 保存修復治療の特徴を説明できる。 36. 保存修復治療の手順に沿った器材を準備することができる。 37. 漂白法の種類を説明できる。 38. 漂白法の手順を説明できる。 39. 漂白法の器材・薬剤の準備ができる。 40. 漂白後の術後指導内容を説明できる。 			

41. 歯内療法の特徴を説明できる。
42. 歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる。
43. 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。
44. 歯肉圧排法と手順を説明できる。
45. 歯肉圧排糸を用いた歯肉圧排ができる。

授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	1章 歯科診療補助の概要	歯科診療補助の位置づけ 診療補助業務と他の医療職種	歯科衛生士の業務と歯科診療補助など	1, 2	寺西
2	2章 医療安全と感染予防	医療安全	医療安全, 歯科診療における医療安全と対策, 医療法と医療安全対策	3-5	寺西
3	2章 医療安全と感染予防	感染予防	感染症と感染予防対策, 標準予防策, リスクアセスメント	6, 7	寺西
4	2章 医療安全と感染予防	感染予防	環境感染予防対策, 手指衛生, グローブ等の装着, 着脱	8	寺西
5	2章 医療安全と感染予防	感染予防	滅菌・消毒・洗浄の定義, 滅菌法, 消毒法	9-11	寺西
6	2章 医療安全と感染予防	医療廃棄物の取扱い	廃棄物の概要, 歯科診療室で発生する廃棄物	12	寺西
7	小テスト①		1~2章の内容	1-12	寺西
8	3章 歯科診療における基礎知識	歯科診療室の基礎知識	歯科診療室の環境, 構造と設備 歯科用チェアユニットなど	13	寺西
9	3章 歯科診療における基礎知識	歯科診療所における受診の流れ	歯科診療所における患者対応の基本 特別な配慮が必要な患者対応など	14	寺西
10	3章 歯科診療における基礎知識	共同動作	共同動作の概念, 術者・補助者・患者のポジショニング, 器具の受け渡しなど	15-18	寺西
11	4章 歯科診療補助における基礎知識	バキュームテクニック スリーウェイシリンジテクニック	バキューム・スリーウェイシリンジの目的, 種類, 基本操作など	19	寺西
12	4章 歯科診療補助における基礎知識	バキュームテクニック スリーウェイシリンジテクニック	ポジショニング, バキューム・スリーウェイシリンジテクニック(実技実習)	16-19	寺西
13	4章 歯科診療補助における基礎知識	バキュームテクニック スリーウェイシリンジテクニック	ポジショニング, バキューム・スリーウェイシリンジテクニック(実技実習)	16-19	寺西
14	3章 歯科診療における基礎知識	薬品(薬物)・歯科材料の管理 ラバーダム防湿	薬物の表示と保管, 歯科材料の管理 ラバーダム防湿の基礎知識など	20, 21	寺西
15	4章 歯科診療補助における基礎知識	ラバーダム防湿	器具の名称と用途, 手順など	21	寺西
16	4章 歯科診療補助における基礎知識	ラバーダム防湿	ファントム実習	22	寺西
17	4章 歯科診療補助における基礎知識	ラバーダム防湿	ファントム実習	22	寺西
18	小テスト②		3-4章の内容	13-21	寺西
19	実技チェックテスト		ラバーダム防湿	22	寺西
20	フィードバック				寺西
21	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象採得	印象材の種類と特徴 アルジネート印象材の取扱い	23	寺西
22	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象採得	寒天印象採得の補助	23	寺西
23	7章 歯科診療で使用する歯科材料	模型材	歯科用石膏の基礎知識	26	寺西
24	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	アルジネート練和実習	24	寺西
25	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	アルジネート練和実習	24	寺西
26	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	アルジネート印象採得(片顎)	25	寺西

27	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	寒天+アルジネート印象採得(片顎)	25	寺西
28	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	アルジネート印象採得(全顎)	25	寺西
29	7章 歯科診療で使用する歯科材料	模型材	アルジネート印象採得(全顎)	25	寺西
30	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材・模型の作製	アルジネート印象採得(片顎)・模型作製	25,27	寺西
31	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材・模型の作製	アルジネート印象採得(片顎)・模型作製	25,27	寺西
32	小テスト③ 実技チェックテスト		7章(印象材・模型材)の内容について アルジネート印象材練和	24-27	寺西
33	実技チェックテスト		アルジネート印象採得	25	寺西
34	実技チェックテスト		アルジネート印象採得	25	寺西
35	フィードバック				寺西
36	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	シリコーンゴム印象材の練和実習	24	寺西
37	7章 歯科診療で使用する歯科材料	印象材	シリコーンゴム印象材の練和実習	24	寺西
38	7章 歯科診療で使用する歯科材料	合着・接着の補助	合着材・接着材の基礎知識, 種類と使用方法	28	寺西
39	7章 歯科診療で使用する歯科材料	合着・接着の補助	合着材・接着材の基礎知識, 種類と使用方法	28	寺西
40	7章 歯科診療で使用する歯科材料	合着・接着の補助	合着・接着材練和実習	29	寺西
41	7章 歯科診療で使用する歯科材料	合着・接着の補助	合着・接着材練和実習	29	寺西
42	7章 歯科診療で使用する歯科材料	合着・接着の補助	合着・接着材練和実習	29	寺西
43	小テスト④ 実技チェックテスト		7章(合着材・接着材)の内容について	28	寺西
44	実技チェックテスト		合着材練和	29	寺西
45	フィードバック				寺西
46	7章 歯科診療で使用する歯科材料	成形歯冠修復の補助	基礎知識, 成形歯冠修復材の種類 取扱いについて	30,31	寺西
47	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	基礎知識, 仮封材・仮着材の種類	32	寺西
48	7章 歯科診療で使用する歯科材料	ワックス	基礎知識, ワックスの種類と用途	34	寺西
49	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	仮封・仮着材の練和実習	33	寺西
50	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	仮封・仮着材の練和実習	33	寺西
51	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	仮封実習	33	寺西
52	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	仮封実習	33	寺西
53	7章 歯科診療で使用する歯科材料	仮封・仮着の補助	仮封実習	33	寺西
54	小テスト⑤		7章(成形歯冠修復材, 仮封・仮着材)の内容について	29-35	寺西
55	5章 歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	保存修復治療の特徴, 診療補助の流れなど(直接・間接修復)	35,36	寺西
56	5章 歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	診療補助の流れ(漂白法)	37-40	寺西

57	5章 歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	トレーセッティング(実習)	35,36	寺西
58	5章 歯科臨床と診療補助	保存修復時の診療補助	トレーセッティング(実習)	35,36	寺西
59	小テスト⑥		保存修復治療の特徴, 診療補助の流れなど	36-41	寺西
60	5章 歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	歯内療法と診療補助の特徴, 診療補助の流れ(麻酔抜髄法, 根管充填)	41,42	寺西
61	5章 歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	歯内療法と診療補助の特徴, 診療補助の流れ(麻酔抜髄法, 根管充填)	41,42	寺西
62	5章 歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	トレーセッティング(実習)/ブローチ綿栓作製	41,42	寺西
63	5章 歯科臨床と診療補助	歯内療法時の診療補助	トレーセッティング(実習)/ブローチ綿栓作製	41,42	寺西
64	小テスト⑦		歯内療法と診療補助の特徴, 診療補助の流れ(麻酔抜髄法, 根管充填)について	41,42	寺西
65	3章 歯科診療における基礎知識	画像検査	口腔内写真撮影	43	寺西
66	3章 歯科診療における基礎知識	画像検査	口腔内写真撮影(実習)	44	寺西
67	3章 歯科診療における基礎知識	画像検査	口腔内写真撮影(実習)	44	寺西
68	3章 歯科診療における基礎知識	画像検査	口腔内写真撮影(実習)	44	寺西
69	復習		ポジショニング、バキューム・スリーウエイシリンジテクニック(実技実習)	16-19	寺西
70	復習		ラバーダム防湿, 仮封材	22,33	寺西
71	4章 歯科診療補助における基礎知識	歯肉圧排	歯肉圧排の基礎知識, 歯肉圧排糸を用いた歯肉圧排の手順	44,45	寺西
72	復習		アルジネート印象材練和、概形印象	24,25	寺西
73	復習		合着・接着材練和実習	29	寺西
74	期末試験				寺西
75	解説・まとめ		期末試験解説		寺西

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版(医歯薬出版)

参考書

最新歯科衛生士教本 歯科機器(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 歯科材料(医歯薬出版)

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況、小テスト、実技チェックテストの結果を総合的に評価し可否を判定する。

備考

